

### 【はじめに】

夏が近づき、4 回生はもう卒論の作業をある程度進めていなければならない時期になりました。まさに大変な時期にさしかかっているわけですが、その中で注意していただきたいことを、私の体験をもとにお話ししたいと思います。

### 【大まかな卒論完成までの流れ】

テーマを決める

↓↑

調べる

↓↑ ← 10 月初旬：卒論題目届提出

書く

↓

推敲・校正

↓

完成 → 1 月初旬：提出

### 【テーマを決める】

ふつう、論文を作る場合、テーマを決める→調べる→書く、という手順を考えるかと思います。もちろん、調べるためにはテーマが必要ですが、相応に調べていなければ、的確なテーマ設定はできません。そのため、テーマの検討と、調査や資料の読み込みとを行きつ戻りつしながら、卒論の題目を決めていくことが必要になります。

#### ●テーマ設定にあたって

- ・今までの授業やレポートなどで興味があったことや疑問に思ったことを探してみましよう。授業の内容について少し掘り下げて調べてみると、疑問点が見つかるかもしれません。
- ・ブレインストーミングをして、自分の興味の方向性や、研究の問題点を確認してみましよう。
- ・「**問い** (問題提起)」と「**結論** (問いへの回答)」をはっきりさせましよう。
- ・ある程度テーマが絞り込めたら、おおまかなプロットまたは章立てを作ってみましよう。問いから結論までの道筋が見えてくると、何を調べたらよいのかがわかります。

#### ●注意点

・9 月末～10 月初旬には卒論の題目を提出します。それ以降は基本的に題目変更ができません。つまり、9 月末までには、テーマが確定していなければならないのです。さらに、書く作業に相当時間がかかります。ですから、なるべく早く「テーマを決める」段階を終え、「調べる→書く」段階に入っておかなければなりません。遅くとも後期が始まるまでには、卒論本文を書き始めておくのが望ましいです。

## 【調べる】

基本的には書籍や論文を読むのが良いです。調べることで、問題点が見えてきます。そうして出てきた問題点をもとに、テーマを決め、問いを設定していくと良いでしょう。

### ●調べるにあたって

- ・いろいろな文献に目を通し、自分のテーマに関連する箇所をピックアップしましょう。
- ・調べたことは、主に自分の意見を述べるための根拠として使うので、よく整理しておきましょう。誰の意見か、どの本の内容か、論文のどこで使うつもりか、といったことがわかるようにしておきましょう。
- ・参考文献として使えそうな本は、書誌情報（著者、題名、出版社、出版年など）を必ずメモしておきましょう。奥付のページをコピーしておくのもよいかもしれません。
- ・遅くなればなるほど、図書館から本が消えます。早く調べる作業にとりかかりましょう。

## 【書く】

ある程度調べて、テーマが固まってきたら、書き始めましょう。実際に書いてみるとプロットや章立て通りにならないことはよくあります。また、資料の不足も見えてきます。そのため、終盤まで書く作業と調べる作業を並行して行うこととなります。なお、卒業論文には十分な質と量が求められるので、当然時間がかかります。余裕をもって書き進めましょう。

### ●書くにあたって

- ・はじめに書式設定しておきましょう。後から変更するとうまくいかないことが多いです。
- ・章立てを気にしすぎず、まずはとにかく書いてみて、後で調整していくことも可能です。
- ・よくわかっていない内容を引用するのは危険です。自分がそこで何を言いたいのかを意識しながら書きましょう。
- ・自分の意見と、事実や引用を区別して書きましょう。引用の作法は守りましょう。
- ・文末は常体（～だ。～である。調）に統一してください。

### ●注意点

- ・バックアップはしっかりとっておきましょう。大事な時ほどトラブルが起きるものです。
- ・ウィキペディアやブログ、まとめサイトなどの情報は、論文には使えません。
- ・コピーや盗作は厳禁です。不合格になります。

## 【推敲・校正】

論文を書き上げたら、誤字や脱字がないか、内容は適切か、チェックしましょう。音読してみると、おかしな部分に気づきやすいです。また、先生や院生に見てもらおうと良いでしょう。

## 【おわりに】

卒業論文は大学での4年間の勉強・研究の集大成です。より良いものとなるよう頑張ってください。今後さらに作業を進めていくうえで、今日お伝えしたことが少しでも参考になれば幸いです。